

# 令和5年度活動報告書

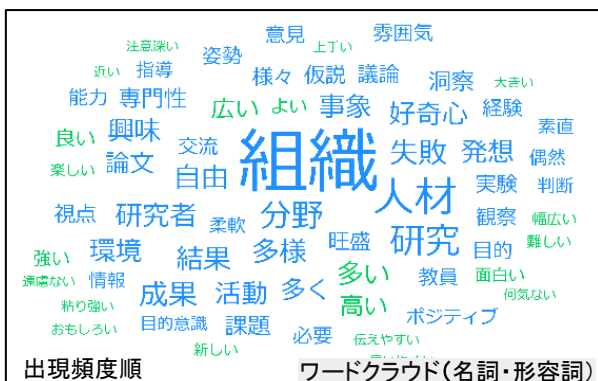
## 【セレンディピティの実態に係る先行事前アンケート調査分析結果】(そのⅡ)

### 分析① セレンディピティを引き寄せる個人と組織とその関係とは

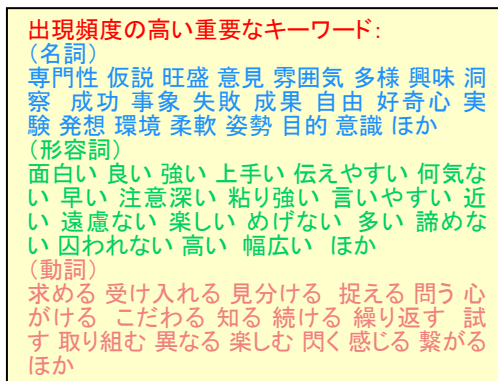
セレンディピティを引き寄せる個人は、独創性と強固な仮説思考、旺盛な好奇心と実験好き、強い目的意識と洞察力、柔軟な発想と異なる視点、結果に拘るポジティブな楽道家、偶然を見逃さない察知力、幅広い知識と経験、周囲を巻き込むコミュニケーション能力、など多様な特徴を兼ね備えています。これらはセレンディピティにはもとより、研究開発やプロジェクトを成功へ導く資質としても重要です。

セレンディピティを誘発しやすい組織は、異なる専門分野でチーム編成されており、異世代間でも遠慮なく意見を述べやすい雰囲気があります。組織に柔軟性があり挑戦や失敗にも寛容で、建設的な意見を自由に交わせる風土が醸成されています。個々の自由な裁量と意見を伝えやすい上司の存在が重要です。このような組織では個人の成功体験とチャレンジ精神が、セレンディピティやイノベーションの成就の重要な要素となります。

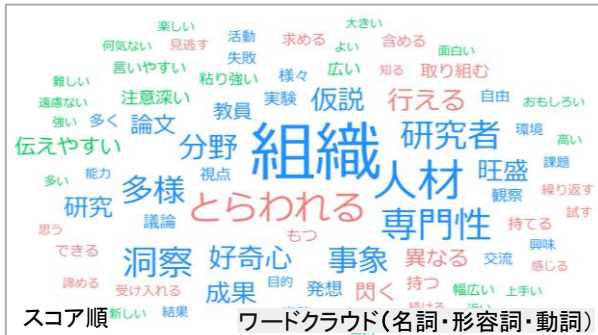
粘り強い試行錯誤と情報共有、異なる領域や業界との交流を積極的に促すことで、多様な人材による発見や閃きを生み出しやすい土壌が育まれ、セレンディピティを誘発する確率は格段に大きくなると考えられます。



\* **ワードクラウド**：全回答データに出現する名詞・形容詞・動詞の頻出度を単語の大小で可視化しています。

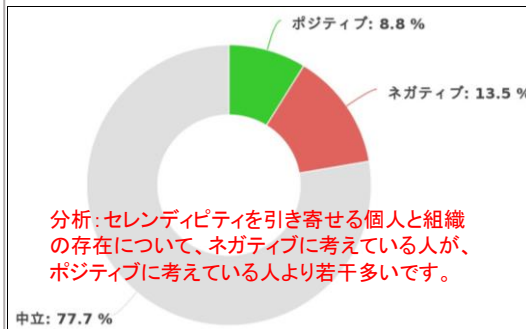


\* **ポジネガ**：質問(4)の記述回答の全内容を分析し、感情の傾向を可視化しています。



\* **スコア**：全回答データに出現する単語がどれだけ特徴的(重要)であるかを表しています。

\* **ポジネガ**：文章に含まれる**ポジティブな感情**の文と**ネガティブな感情**の文と中立の感情の文の存在比を示しています。「感情」は、文章に含まれる各感情の度合いを数値に換算しています。なお、各感情の数値は、全ての感情の平均値を50%とした偏差値



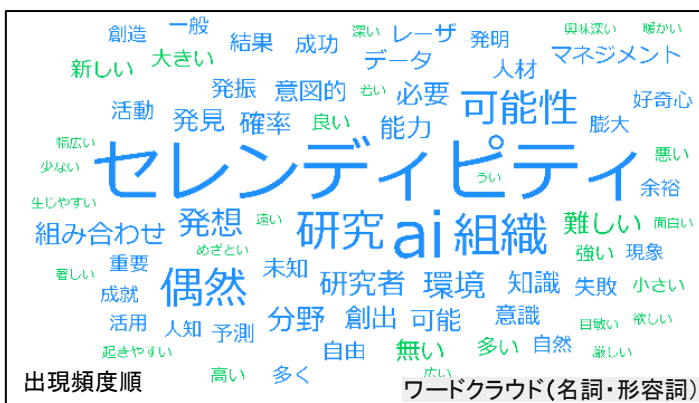
\* 以上の分析には、当該アンケート調査の質問(4)の記述回答の全内容をそのまま利用しています。

## 分析② セレンディピティを成就させる個人と組織のマネジメントとは

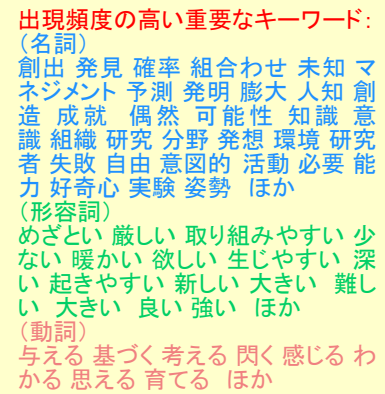
セレンディピティを成就させるには、強い目的意識と真実への探究心、幅広い専門知と経験知・暗黙知の組合せ、集中力と分散力の切換え、顕在思考と潜在思考の反復、個性を活かした多様な視点でのブレインストーミング、先入観を超えた発想力、などの特徴が個人と組織に求められます。とくに、研究者には早急な成果を求めず、目的外の結果にも寛容になれる組織の余裕が必要です。このような要件を満たすマネジメントによれば、どんな個人にも偶然と閃きが生まれますが、新奇な提案が受け入れられる土壌が重要です。

そのためには、組織内外との連携を有機的に構築したうえで、個人に主体性を与え仕事を楽しみ集中させ、挑戦と失敗をチームで分担し、セレンディピティに繋がる意図的活動を許容する文化・風土を醸成することが重要です。とくに、職務遂行と自由な発想を別視点で捉え、柔軟で多様な思考をサポートする必要があります。

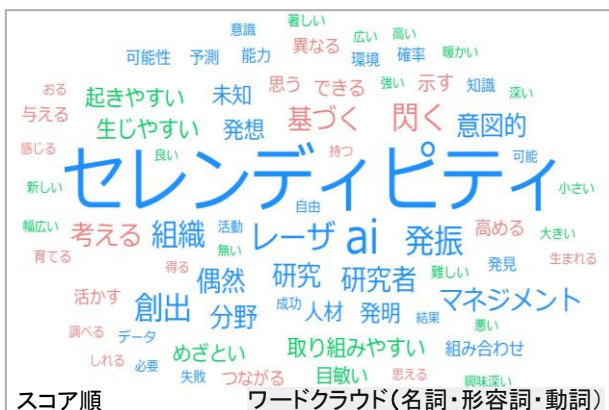
このように、セレンディピティを生じやすい環境を作るマネジメントにより、組織全体にわたってセレンディピティの実現性を高めることができます。多様性としての AI との共創がセレンディピティの意図的創出に貢献する可能性があります。



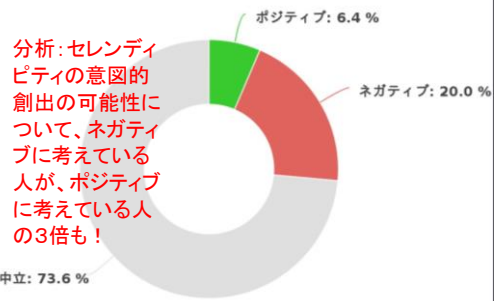
\* **ワードクラウド** 全回答データに出現する名詞・形容詞・動詞の頻出度を単語の大小で可視化しています。



\* **ポジネガ** ↓: 文章に含まれる**ポジティブな感情**の文と**ネガティブな感情**の文と中立の感情の文の存在比を示しています。「感情」は、文章に含まれる各感情の度合いを数値に換算しています。なお、各感情の数値は、全ての感情の平均値を50%とした偏差値を示しています。



\* **スコア** ↑ 「スコア」の大きさは、全回答データに出現する単語がどれだけ特徴的(重要)であるかを表しています。通常はその単語の出現回数が多いほどスコアが高くなり、文字が大きく示されます。

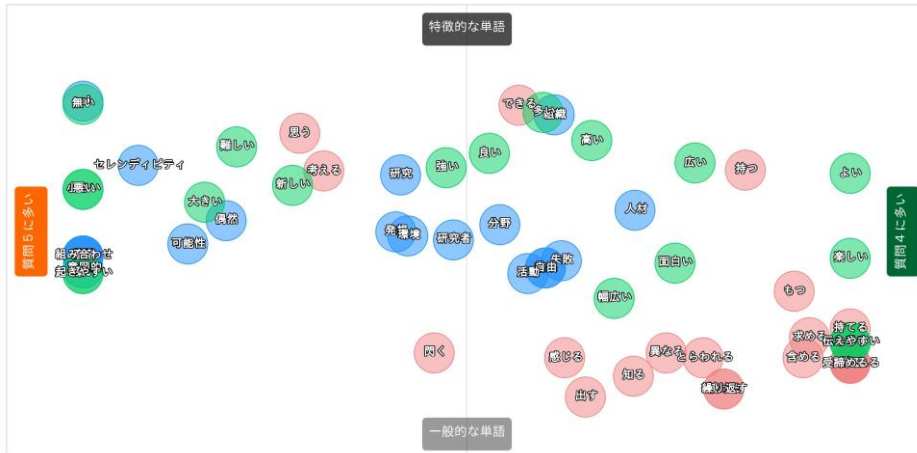


**ポジネガ** ↑ 質問(5)の記述回答の全内容を分析し、感情の傾向を可視化しています。

\* 以上の分析には、当該アンケート調査の質問(5)の記述回答の全内容をそのまま利用しています。

(ご参考:特徴語マップ)

アンケート調査の質問(4)と質問(5)の記述回答中の単語がどちらの回答データにより多く出現するか、またその単語が回答データにおいてどれだけ特徴的であるかを2次元にマッピングしています。上寄りの単語はそれぞれの回答データの特徴的な単語であることを、下寄りの単語はどちらの回答データにも出現する一般的な単語であることを示しています。



※分析①と②に関する内容は、「ChatGPT」ならびに「ユーザーローカル AI テキストマイニングツール (<https://textmining.userlocal.jp/>)」による分析結果に基づいて作成したものです。

考察① 「セレンディピティを誘引・成就する個人と組織とそのマネジメントの在り方とは」

分析①と②の内容を簡単な模式図にすると次の図のようになります。価値ある偶然、すなわち邂逅(かいこう)と思われる事象の多くは、誰か(社長/部長/教授)あるいは何か(伝統/風土/文化)が、その素地(雰囲気/土俵/土壌)を整えていたために起きているとも考えられます。個人の資質が輝ける環境や皆がワンチームになれる環境、すなわち

飛躍的なセレンディピティ成就のための創造マネジメントの土俵としてのセレンディピティ・プラットフォームの構築が、セレンディピティを誘引する個人、それを成就する組織及びそのマネジメントの要になるものと期待されます。AIは、このプラットフォームの一員として貢献する可能性があります。

